

市政のここが聴きたい！

# 一般質問

10議員が登壇

傍聴者延べ35名

一般質問とは、議員が市政全般にわたり市長をはじめ執行機関側に、事業の執行状況や将来の方針などを質問し、説明を求めるものです。

※一般質問の様子もホームページで録画配信中ですのでご覧ください。

**問** 自然災害の増加、先行き不明な国際情勢や円安などの社会変化を受け、食料自給率の向上や、輸入肥料等に頼らない食料生産が、課題として顕在化してきている。日高市は、都市と農村の中間的な色合いを持つまちであり、埼玉県の雛形のように言われる小さな市。そんな日高市だからこそ、危機に強く環境にやさしい、これからの時代の豊かな地域循環共生のモデルを率先して実現し、社会に示していける可能性に満ちていると考える。その切り口の一つとして今回は、学校給食を起点にした農業振興を取り上げたい。まず、農業における現状の課題は。

**答** 農業従事者数がこの20年間で半数近く減少し、遊休農地が増加している。収穫の達成感や貢献する喜び等、農業の魅力を周知していく必要があると考えている。

**問** 就農を考えるきっかけづくりとして、農業体験の機会を創ることは。

**答** 市民農園や援農イベントを支援していく。

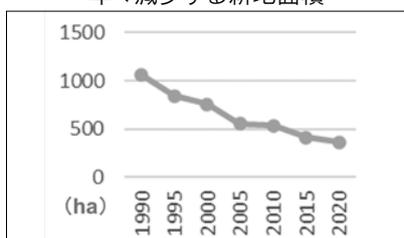
**問** 全国では、市が学校給食での買取りを保障することで、農家の収入の安定や、市内の子ども達に食べてもらえるやうがい、また食育、環境保全にもつなげていくという事例が増えている。そのように、生産者にとってもメリットのある枠組みを関係団体と連携して作っていく考えは。

**答** 生産者と学校給食センター双方との体制づくりについて検討したい。

**問** 日高市は、有機農産物の生産量が極めて多く、全国屈指のオーガニック関連事業者も多い。国の進める「オーガニックビジネス」に名乗りを上げ、交付金を利用し、地産地消や農家の有機への転換を支援していく考えは。

**答** 本制度の利用予定はないが、近年、消費者の有機への関心も高く、早く取り組むほど新たな消費者を取り込むチャンスが大きいと考える。まずは、市役所マルシェや農業イベント等、生産者と流通業者、消費者がつながる機会の場を作りたい。

年々減少する耕地面積



(統計ひだかより作成)



学校給食と連携した地域の農業支援を

松尾 万葉香